

保木間小学校の

オリンピック・パラリンピック教育



保木間小学校では、「知・徳・体」の教育を具現化するために、オリンピック・パラリンピック教育にも力を入れています。

平成29年度には、東京都教育委員会のオリンピック・パラリンピック教育推進事業を受けて、次のような取り組みを行いました。

1 ボールルームダンス体験

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の公開競技に立候補した「ボールルームダンス」に挑戦しました。日本ボールルームダンス連盟から、講師（市川 学先生・大島寿子先生）とデモンストレーター（三木 真・鈴木善子組）が来校し、4・5年生がチャチャチャのダンスを体験しました。



初めて見る華麗な衣装や激しいダンスの動きにみんな驚いていました。

※協力：『「ボールルームダンス」学校キャラバン隊』



2 ボッチャ体験

パラリンピックの正式種目である「ボッチャ」を楽しみました。ボッチャは脳性まひの障害のある方のスポーツです。投球の際に“ランブ”という投球具を使うBC3クラスの二人の選手が来校しました。小堀逸也選手（競技歴24年）と菅野結希選手（競技歴13年）は、国内外で多数の遠征経験を持つ日本代表選手で、ボッチャを始めてから変わった生活のこと、ボッチャで日本代表として世界に出ること、競技を続けていく中で経験したことなど、たくさんのお話を伺いました。競技アシスタント（介助者）の体験もして、ボッチャ競技への理解を深めることができました。



3 ジャベリックスロー、 ビーンバッグ投げ

本校の体力調査の結果では、他校と同様「投げる力」に課題があることが分かりました。そこで、投てき力の向上を目指して、全国障害者スポーツ大会の正式種目「ジャベリックスロー」で使用するターボジャブとビーンバッグ(=写真)を購入し、全身を使って投げる感覚を学び、投力を高めることに挑戦しています。



この他、ボランティアマインドの醸成を目指し、六月中とのあいさつ運動や全校たてわり活動のあいさつ運動に取り組んでいます。

平成30年度には、これらの実践が評価されて、オリンピック・パラリンピック教育アワード校(顕彰部門：障害者理解)として表彰されました(=タイトル写真参照)。

4 「私らしく」(水泳体験)

重度脳性まひのために全面的な生活介助を必要としながらも、水泳でパラリンピックを目指す山下智子さんの活動を、紹介しました。多摩テレビが取材したテレビ番組で事前学習した後、7月の暑い日に講演に来てくれました。山下さんは生まれつきの運動機能障害がある車いすユーザーですが、コーチ(=シドニーオリンピック水泳銀メダリストの中村真衣選手)の指導を受けながら、厳しい練習を重ねています。本校の屋外プールで、50m背泳ぎを1~6年生全員の前で披露してくれました。子供たちは山下選手の泳ぎから目を離さないようにじっと見つめながら、あるいは「がんばれ!!」と応援しながら、しっかりと見ていました。山下さんは生まれて初めて屋外プールで泳いだ

とのこと。その経験談や何事にも挑戦する意欲は、子供たちの心に大きく響きました。



5 これからのオリパラ教育

東京都教育委員会では、子供たちがオリンピック・パラリンピックについての知識を習得するだけでなく、実際に体験や活動することを通じて学びを深めていくような学習を一層推進していきます。東京2020大会と、さらにその先を見据えた、計画的・継続的な教育を展開していくことが求められています。

本校の図書室には、オリンピック・パラリンピックに関する蔵書が、充実しつつあります。話題の最新刊も配架され、きれいな図書室に生まれ変わりました。元足立区立図書館長の畑中進先生の助言により、保護者を母体とした図書ボランティアが鋭意活動中です。



今後も様々な分野で活躍されている方々をお呼びして講演いただいたり、一緒にスポーツを体験したりする活動を通じて、児童の体力向上、心の醸成に取り組んでまいります。